

第4回となる今年度の表彰においては、全国各地から19件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全19件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取組みをご推薦いただきました。特に、今年度は鉄道、船舶、航空などの多様な公共交通や様々な種類の建築物に関わるバリアフリー化の取組みがあり、また、施設等の整備に当たって、設計段階のほか特に施工段階でも高齢者・障害者等の方々の意見を取り入れた取組みが目立ち、多様な分野におけるバリアフリー化の取組みが深化しつつあることが感じられました。

表彰対象の選考に当たっては、ハード面の取組みについては、施設等の整備水準が高いことや、高齢者・障害者等の方々のご意見を多段階で十分取り入れていること、表彰を通じて今後の同様の取組みによりバリアフリー化の展開が一層拡大していくことが期待されることなどを考慮して評価しました。

また、ソフト面の取組みについては、地道であっても継続的に取組みが積み重ねられてきていることや、バリアフリー化が求められる多様な場面に対応して活動が行われていること、さらには、同



高橋 儀平 委員
(東洋大学 教授)

様の活動分野において今後さらなる取組みの展開が期待されることなどを考慮して評価しました。

「北海道空港株式会社」につきましては、新千歳空港国際線ターミナルビルの新設に当たり、基本設計時から、有識者や障害当事者等によるユニバーサルデザイン検討委員会のほか多様な障害者が参加した当事者ワーキングチームやユニバーサルデザインの専門家ワーキングチームを高い頻度で開催して、障害当事者等の意見を設計や工事に反映し、その結果、手動車いす使用者が利用できる一般便房や、弱視者に配慮した設備、エスカレーターへの逆進入防止設備、6カ国語によるサインの整備など、高度なバリアフリー化を実現したことを高く評価し、表彰対象といたしました。

「東京国際空港ターミナル株式会社・京浜急行電鉄株式会社・東京モノレール株式会社」につきましては、東京空港国際線ターミナルビルの新設に当たり、有識者や障害当事者等のほか、受賞者3者が参加したユニバーサルデザイン検討委員会を立ち上げ、多様な障害者が参加した当事者ワークショップを高頻度で開催して、障害当事者等の意見を設計や工事に反映し、その結果、ターミナルビル全体においてユニバーサルデザインに配慮したほか、鉄道駅ホーム階と空港の到着・出発階を直接結ぶ大型エレベーターの整備や、モノレールのホームから出発ロ



秋山 哲男 委員
(国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会 委員長)

ビーまでフラットな動線の確保、エレベーターにおける聴覚障害者への災害時対応設備や案内所への磁気ループ設備の整備など、施設全体における高度なバリアフリー化を連携して実現したことを高く評価し、表彰対象といたしました。

「株式会社みずほ銀行」につきましては、誰にでも利用しやすい銀行を目指した「ハートフルプロジェクト」を立ち上げ、有識者によるアドバイスをふまえて、全店統一の改修基準を定め、有人店舗をはじめとする店舗において、段差解消のほか自動ドアや車いすでも利用できるトイレ・駐車場、視覚障害者対応ATMなどの整備を全国的に広範に実施したほか、障害の種別に応じた対応マニュアル整備や研修の実施等による接遇の向上など、ハード面・ソフト面から利用しやすい銀行店舗づくりに全社的に取り組んだことを高く評価し、表彰対象といたしました。

「音羽山 清水寺」につきましては、国宝・重要文化財として建造物の改修上の制約が多く、また高低差の大きい傾斜地という厳しい条件にある境内において、関係機関との調整を重ね、障害者等用の車によるアクセスを確保し、車いす用使用者等のための参道の舗装や、音羽の滝付近の階段部の路面の大幅な切り下げによるスロープ整備をはじめとする境内一周参拝ルートの整備のほか、境内複数箇所に多機能トイレを整備、手で触れるこ



選考風景

とのできる観音像を奉祀するなど、多数の観光客が訪れる寺社地のバリアフリー化に取り組んだことを高く評価し、表彰対象といたしました。

「北大阪急行電鉄株式会社・吹田市・豊中市」につきましては、両側を幹線道路に挟まれた傾斜地の谷部にあり、また市境に位置する桃山台駅及びその周辺区域において、両市が共同でバリアフリー基本構想を作成した上で、3者が計画から実施段階に至るまで関係機関と協議を重ね、当初計画から大幅に整備内容を拡充して、駅舎を新たに設置しエレベーター等を整備したほか、国道を立体横断する歩行者用通路等を整備して、周辺住宅地へもつながるフラットなルートを確保し、条件の厳しい既存鉄道駅において事業者と地方公共団体が一体となってバリアフリー化を実現したことを高く評価し、表彰対象といたしました。

今回ご推薦いただいたものには、それぞれ特徴のある取組みも多く、今回受賞とならなかったものにも、優れた取組みがありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、それを通じて我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

＜選考委員一同＞



三星 昭宏 委員
(近畿大学 教授)